

## 〈ひと〉 広島県自動車車体整備協同組合の理事長に就任した金尾一美氏



「じわじわと悪くなっている」と業界の実情を憂う。車体整備市場が縮小し、事業者の収益力の低下に歯止めがかからないからだ。だが、「若い人のところは活気がある」ともいう。若手事業者が苦闘しながら、業界課題に立ち向かう姿勢に少し光明も感じている。

福山で父親の跡を継いだ2代目。高校卒業とともに、職人として現場に立った。「継ぐのは当たり前だと思っていた」と、脇目もふらずこの仕事に努めてきた。今も整備技術の勉強会に足を運んでは最新の技術に触れている。そんな金尾さんでさえ「最近の車の進化にしっかり対応しないと大変なことになる」と感じるが多くなった。

ある国産高級車のバンパーに軽い事故キズを見て「2～3万円の仕事かな」と見積もると、センサーエラーが出て実際には10倍以上も費用がかさむ作業になった。超高張力鋼板を採用した軽自動車のボディ凹みに、半日以上費やすことも珍しくない。なかには、ハンドルを外すとユーザーに盗難の連絡が入る車があると聞いた。

「うっかり、これまでの経験だけでは扱えない。我われも、ちゃんとした知識がないと（仕事が）できない時代になった」と自然と口調が厳しくなる。広島車協の今年度のスローガンにも「自動車の高度化に対応できる知識や先進技術の習得を！」を掲げた。

8年ぶりとなる「もれやすい作業工数表」改訂版を今夏にも頒布する予定だ。新しい車体技術に対する現場の声を反映したもので、複雑化する車体整備作業の実態を「お客さんにも保険会社にも理解して欲しい」と考えてだ。

自身を除き、広島車協新執行部の平均年齢は40歳代の若手で組んだ。自社でも多くを息子さんに委ねている。「若い人の行動力を期待し生かしたい」と考える金尾さんならではの、構造改革への新たなアプローチだ。（保田 明宏）

かなお・かずみ 1951年生まれ。70年金尾板金塗装工場入社。2002年社長。03年5月広島車協理事、13年5月副理事長、17年6月理事長。福山市出身、66歳。